



出張報告書

令和 8 年 7 月 21 日

尼崎市議会議員 様

会 派 名 青雲の会

代表者氏名 波多 正文

出張者氏名 波多 正文 佐田 剛仁 高野 由里子

このたび、出張しましたので、次のとおり報告します。

1 出張期間 令和 8 年 7 月 13 日から令和 8 年 7 月 14 日まで

2 結果の概要

用務先 東京都 渋谷区 練馬区	報告事項 (この欄には要点を箇条書きにし詳細事項がある場合は別紙添付) 1 「シブヤ未来科」の取組について 2 「農の学校」の取組について 3 4 5
添付書類 ☐ 出張報告書 ☐ ☐ ☐	備 考

3 届出事項の変更等 ☐ なし ☒ あり (内容は裏面に記載)

旅 費 の 精 算

- ☐ 精算額は、令和 年 月 日届け出た額 (円) と同一額である。
- ☒ 届出事項の変更等により、別途精算する。(精算額は裏面に記載)

(裏面)

届出事項の変更等の内容

変更等の事項と理由

出張届出書提出時には視察先の学校が未定であったが、後日、視察校が宿泊地と近接していることが判明し、申請していた宿泊地までの移動に伴う交通費が不要になったため。

(対象区間)

・渋谷駅～幡ヶ谷駅間 190円×3名分＝570円(7月9日戻入済)

支 出 額	1 3 9 , 4 0 0
精 算 額	1 3 8 , 8 3 0
支出 差引 額 (戻入)	5 7 0

※7月9日戻入済。
視察後の清算はなし。

変更前と後の日程

	月	日	日	日	日	日	日
前 発着地							
後							
前 経 路							
後							
前 用務先							
後							
前 宿泊先							
後							

視察報告書：渋谷区独自の探究学習「シブヤ未来科」および西原小学校の実践

1. 視察概要

- **日時** 令和8年7月13日（月） 午前10時30分～午後3時30分
- **場所**
午前：渋谷区役所（行政説明：STEAM教育・シブヤ未来科概要）
午後：渋谷区立西原小学校（授業参観・学校経営説明）
- **報告者** 佐野 由里子
- **視察者** 所属団体名：青雲の会 氏名：渡辺 正文, 佐野 由里子, 高野 由里子
- **目的** 文部科学省の「授業時数特例校制度」を活用した授業時数の捻出と、資質・能力の変容の関係性を検証することを主眼とする。渋谷区が推進する探究学習「シブヤ未来科」の理念、教育課程上の位置づけ、および学校現場における具体的な実践状況（ICT利活用・地域連携体制）を精査し、今後の本市における教育政策立案の参考とする。

2. 渋谷区教育委員会による行政説明（午前：座学）

「シブヤ未来科」の理念と教育対抗

「1人ひとりのちがいを力に変える」という教育大綱の基本理念を具現化すべく、未来の学校で重視する「7つの力」を定義し、既存の教科教育の枠を超えた探究的学びを推進している。

- **未来の学校で大切にする「7つの力」**
- **基礎**：知識・技能の習得
- **探究**：問いを立て、解決する力
- **自律**：自己を律し、調整する力
- **協働**：他者と高め合う力
- **共感**：他者の状況を理解する力
- **創造**：新たな価値を生み出す力
- **挑戦**：失敗を恐れず踏み出す力

教育課程の特例措置

教育課程特例校制度を戦略的に運用し、各教科の授業時数を1割削減。捻出した時数を「シブヤ未来科（総合的な学習の時間）」へ充当している。

- **時数拡充の実績**：各教科の授業時間を10%削減させるなど、標準時数70時間の「総合」を約155時間まで倍増させており、探究の深化に必要な圧倒的な「時間的余白」を制度的に保障している。

探究の3層構造と螺旋的發展

探究プロセスを「探究基礎」「テーマ探究」「マイ探究」の3フェーズに構造化し、学年・校種を跨いで螺旋的に高度化させる設計を採用している。

- **探究基礎**：Canva等のICTツール活用法、インタビュー技法、思考ツールを用いた情報の構造化など、探究の基盤となるスキルを習得する。

- **テーマ探究：** 地域・福祉・環境等、発達段階に応じた共通テーマに対し、集団で最適解を導出する。
- **マイ探究：** 児童生徒個人の知的好奇心を起点とした「個別の問い」を追究し、自己調整学習を深化させる。

高度な教員支援と外部資源の参画

「教員が孤立しない探究」を実現するため、重層的な支援体制を構築している。

- **シブタン・フェロー：** 地域連携の窓口として、学校と外部リソース（企業・専門家）をマッチングする専属人材を配置。
- **探究専門教員：** 大学院博士課程学生等の高度専門人材を招聘し、授業設計への伴走支援を実施。
- **校務DXの推進：** 生成AI（Copilot等）の導入により、年間約2,500時間の校務削減を企図し、創出した時間を授業準備へ還流させている。

3. 西原小学校における学校経営と「シブヤ未来科」の実践（午後：現地視察）

学校経営方針（4つのPillar）

「チーム西原」をスローガンに、エビデンスに基づいたボトムアップ型の学校改善を推進している。

1. **安心・安全を図る学校（にこにこ）：** 挨拶が溢れ、心理的安全性が確保された環境。
2. **生きる力を育む学校（しっかりと）：** 自ら考え、表現し、デジタルシティズンシップを体現。
3. **保護者・地域と共に歩む学校（はっきりと）：** 手をつなぎ協働する西原地域との連携。
4. **子供も職員も輝く学校（らんらんと）：** 教職員のウェルビーイング向上と組織力強化。

授業参観の記録：問いの深化と地域への企及

- **5学年「食品ロス」の実践** 当初、児童は「サラダの残食が多い」と仮説を立てていたが、実データの分析（1日約10kgの残食）を通じ、「実はお米（ご飯）の残食率が最も高い」という事実に至った。この「仮説と実データの乖離」が問いの深化を招き、企業の規格外品活用事例へのインタビュー調査や、解決策としてのスムージー提案など、実効性のあるアクションへと昇華させていた。
- **6学年「商店街の活性化」の実践** 不動通り商店街のプロデューサー・矢沢氏を招聘。同氏が提唱する「人間UFOキャッチャー」等の革新的なイベント企画の背景には、「1年間地域活動に顔を出し続け、信頼関係を構築したプロセス」があることを示唆。単なる手法の模倣ではなく、地域社会における「斜めの関係」構築の重要性を児童に企及させていた。

研究主題と指導の工夫

- **研究主題：** 「粘り強く学習に取り組む子の育成～探究的な見方・考え方を働かせる指導～」
- **指導の変容：** 知識の集積に留まる「調べ学習」を脱却し、ウェビングマップ等を用いて児童の思考を構造化。教員間で「ゴールイメージ」を事前に共有することで、指導の質の平準化を図っている。

4. 視察による成果とデータ分析

学力と非認知能力の相関分析

授業時数削減が基礎学力へ与える懸念に対し、本校は全国学力調査において顕著な結果を示している。| 教科 東京都平均との比較（正答率）|| 算数 | +6.0% || 国語 | +4.0% |

主体性の意識における課題

児童の90%以上が探究学習に肯定的な姿勢を示す一方で、自己評価アンケートの結果から以下の課題が抽出された。

- 「自分の行動が地域や学校のためになっている」との回答：64% 探究活動が「自己満足の体験」に留まっていないか、社会貢献実感や有用感を如何に醸成するかが次期フェーズの焦点となっている。

教員の変容とノウハウの承継

教員の約79%が探究学習に肯定的な価値を見出している。ゼロベースでの授業構築負担を軽減するため、実践事例を蓄積した「探究ポータルサイト」の活用や、学年を越えた指導案の承継システムが機能している。

5. 所見および今後の課題

教育的意義の総括

従来の「正解を教授する一斉授業」から、児童が自律的に問いを生成する「主体的な学び」へのパラダイムシフトは、学力の維持・向上と学習意欲の喚起に有効に作用している。実社会のステークホルダー（企業・商店街）と接続された学びは、抽象的な知識を「生きた知恵」へと変容させる確かな効果が認められる。

実務的課題と展望

1. **機動性を阻害するアナログ事務の簡素化：** ICTによる効率化が進む一方で、校外学習に伴う「校外学習届け」等の事務手続きが過重な負担として残存している。探究学習の機動性を損なわないよう、承認フローのDX化が急務である。
2. **指導の質の均質化に向けた体制：** 教員の専門性や熱意に依存する「属人化」を避けるべく、探究コーディネーター研修の拡充やウェビングマップによるゴールイメージの共有を徹底し、組織的な指導体制を盤石なものとする必要がある。
3. **「社会を変える」実感の醸成：** 単なるイベントの実施で終焉させず、児童の提案が実社会に実装される経験を積み重ねることで、前述した「主体性意識（64%）」の向上を図ることが期待される。

出張調査報告書

- 【報告者】 高野 由里子
- 【参加者】 波多 正文 佐野 国民 高野 由里子
- 【日時】 令和8年7月14日（火）
- 【場所】 練馬区立農の学校 東京都練馬区高松1丁目35番2
- 【視察目的】 都市農業について先進的な取組をしているという練馬区において、
区が開校している農の学校の見学と、都市農業全般において事業の理解を
深め本市で活かすため
- 【担当】 練馬区都市農業担当部都市農業担当課および環境部の職員の方々
- 【内容および所管】
農地というものは、ただ食料を生産するためだけの土地、ではなく、近年
防災や子供の情操教育、リラクゼーション効果や市民の交流の場等々、非
常に多様な機能を持っていることから、それらの状況に沿う施策の充実と、
農地の保存が重要な課題である。
- 今回お話を伺いどれも非常に参考になったが、まずは江戸の伝統野菜であ
る「練馬大根」について。一度は廃れていたものの、種が保存されていた
ことから蘇らせたという話は非常に興味深かった。今では一定量は収穫さ
れ、1メートル以上あり非常に収穫しづらい（抜きにくい）という、一見
デメリットとなる特性を活かし、あえて「練馬大根引っこ抜き大会」を開
催することで、市民への伝統野菜の周知と協働を成功させ、そしてその収
穫の翌日には区立小学校の給食に練馬大根が並んでいるという。区民の団
結力を感じさせる非常によく計画された催しであると思います。また、練
馬大根に関しては、区が買い取りを保障しているということであった。
尼崎市では現在「あまやさい」の周知を進めているが、通常のアマやさい
と伝統野菜の3種は、良い意味で差別化してアピールすべきであると考え
ます。

他、農業の支援においては、道具等の補助金や営農に関する相談などがあげられるが（当然これも必要である）、視察した農の学校は直接農家さんの作業を手伝うためのサポーター育成に特化している。初級コースは15名の定員だが約3倍の倍率があるということで、それだけボランティアでも農家さんを手伝いたい！（費用は年間1万円かかる）という区民が毎年いるというのは素晴らしいことである。

そして農家さんを1軒1軒まわり現状を丁寧にヒアリングすることで、サポーターさんのマッチングや、区の支援施策をご存じでない農家さんへ必要な支援をつなげている。

また、民間で行えるところ、区が費用をかけてでも主導して行うところ、区はサポートにまわるところなど、しっかり捉えて対応されていることがよくわかりました。

練馬区独自の施策に関しては、都市型認定農業者制度などは本市でも検討の余地があると考えます。

視察で学んだことを踏まえ、本市でもしっかり活かしてまいります。